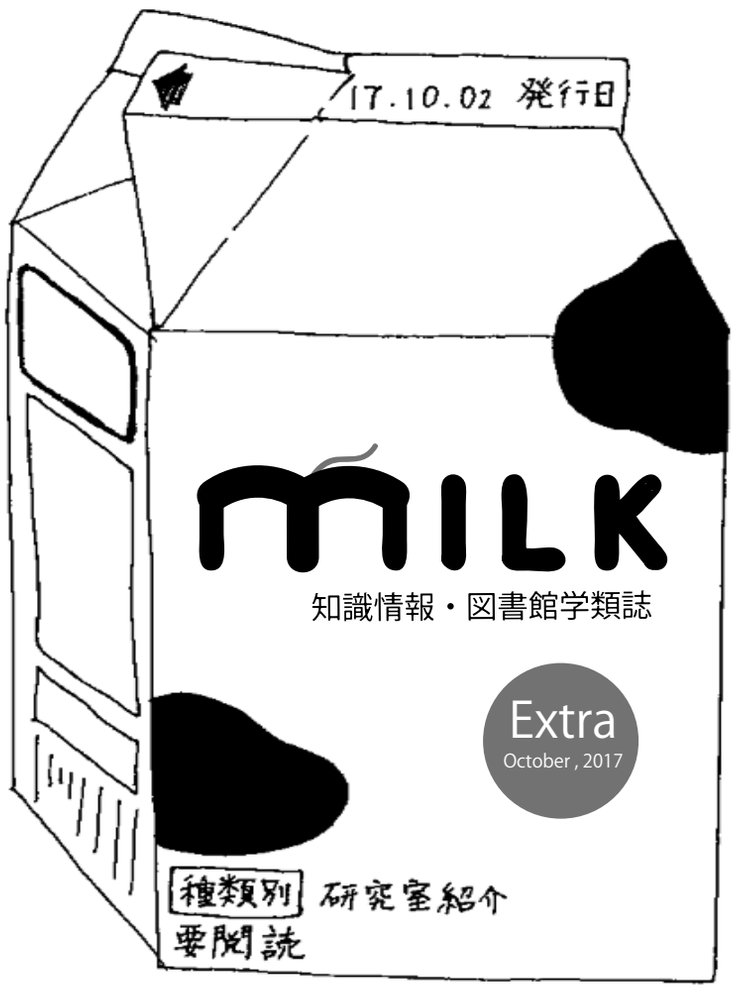

17.10.02 発行日
MILK
知識情報・図書館学類誌
Extra
October , 2017
種類別
研究室紹介
要閲読

研究室紹介号

MILK

知識情報・図書館学類誌

Extra
October , 2017

知識情報・図書館学類誌 MILK とは？

M ..... Management
I ..... Information
L ..... Library
K ..... Knowledge

2007 年の創刊以来、学類生ならではの目線で学類生に有益な情報を
年 2 回 (7 月・12 月) お届けしています。
今回は研究室紹介号をお送りいたします。

CONTENT

知識科学主専攻

歳森敦研究室……02
上保秀夫・于海涛研究室（ISR 研究室）……03-04
横山幹子研空室……05
照山絢子研究室……06
辻慶太研究室……07
叶少瑜研究室……08

知識情報システム主専攻

高久雅生研究室……09
バールィシェフ・エドワルド研空室……10
阪口哲男研究室……11
鈴木伸崇研究室……12
時井真紀研究室……13
若林啓研究室……14
宇陀則彦・松村敦研究室……15-16
佐藤哲司研究室……17
手塚太郎研究室……18
緑川信之研究室（＊）……19
関洋平研究室 (＊２)……20

知識資源経営主専攻

逸村裕研究室……21
吉田右子研究室……22
原淳之研究室……23
石井夏生利研究室……24
村井麻衣子研究室……25
平久江祐司研究室……26
綿抜豊昭研究室……27
鈴木佳苗研究室……28

＊来年度、ご定年を迎えられます。ご留意ください。
＊２今年の卒業研究生募集はありません。

歳森研究室

指導可能な研究領域

知識や情報の流通・利用に係わるサービスに対する個人の意識や行動を計量的分析

現代を生きる我々は、人から聞く、テレビで見る、新聞で読む、Webで調べるなど、いくつもの方法で情報を得て、知識を獲得します。このような情報源の選択や情報の評価の際における人間の行動と意識を、量的調査と計量的分析から解明していきます。

週１回のゼミで各自が研究テーマ案を発表し、先生やゼミ生とディスカッションする中で研究テーマを着手発表までに決定していきます。歳森研究室では、学生が希望する研究テーマを持ち込んで歳森先生が「おっけー」といえば、なんでも研究できます。持ち込んだ研究テーマがそっくりそのまま採用されることはまれですが、いままでに歳森先生の口から「ぜったいだめ」という言葉は聞いたことがないので、卒業研究として成立するように先生が一緒に考えてくれることでしょう。研究室の雰囲気はとても自由で、ゼミ生は好きな時間に自分がしたいように研究しています。もちろん、飲み会や研究室旅行もあるのでゼミ生同士は仲良しです（きっと）。

「歳森研究室は面談を受けなくてもいいから」という理由で、歳森研究室を希望した人も過去いましたが、研究室の相性は大事なので面談を受けてみることをお勧めします。具体的なテーマや方向性がなくても大丈夫です。好きな映画の話でもしてください。もちろん、ゼミの見学はいつでも受け付けているのでご希望の方は歳森先生にメールしてみてください。

- ✧ E-mail : tosimori@slis.tsukuba.ac.jp
- ✧ 学生研究室 : 7B140
- ✧ ゼミ（2017年度）: 週1回2-3時間
- ✧ 学生（2017年度）: 学類3人、博士前期課程1人、博士後期課程2人
- ✧ 卒業後の進路 : Accenture、NECソリューションイノベータ、NEC特許技術情報センター、茨城県中学校教員、大学院進学
- ✧ イベント : 飲み会、ゼミ旅行

筑波大学ISR研究室

> 上保秀夫・于海涛研究室

ISR研究室は、情報探索と情報検索の研究をおこなっている研究室です。 `ISR` は Information Seeking and Retrievalの略です。研究室の詳細についてはホームページやTwitterをご覧ください。

ホームページ：https://isrtsukuba.github.io/ Twitter：https://twitter.com/ISRTsukuba

研究室メンバー（2017）

所属	人数	所属	人数	所属	人数
教員	2	博士後期	2	学類4年	1

ゼミの頻度・年間スケジュール

ゼミは週1回行います。ゼミの前にはラボノートを準備してくるのがルールです。また、着手発表会や中間発表会の前後に学内外他研究室との合同ゼミをおこない、多様なフィードバックを得ながら研究を進めていきます。

月	イベント	月	イベント
12月	ゼミ開始	9月	第2回合同ゼミ
1-3月	基礎固め・トピック選び	10月	中間発表会
4月	第1回合同ゼミ	11月	第3回合同ゼミ
5月	予備調査	12月	卒論執筆・提出
6月	着手発表会	1月	最終発表会
7-8月	データ収集・解析	2-3月	学会等論文投稿

学生の研究テーマ例

- 共同作業中の対話に潜在する情報ニーズの類型化
- 情報検索行動における制約の効果
- 震災時における情報探索行動
- 大学生のタスク管理に関する研究

- 情報機器の切り替えに関する行動分析

ISR研究室の最近のニュース

- **2017.08**: 上保先生が、情報検索分野の最高峰国際会議である第40回ACM SIGIRカンファレンス（SIGIR 2017）において共同大会委員長を務め、SIGIR史上最大の900名を超える参加者を集める。 http://sigir.org/sigir2017/
- **2017.07**: 上保先生とMark Sanderson教授（オーストラリア・RMIT大学）との共同研究が、Science in Publicで紹介される。 http://stories.scienceinpublic.com.au/2017/search-engine/
- **2017.06**: 上保先生がAssociate Editorを務めた2014-16年の間に、Information Processing and Management誌のインパクトファクターが、 `1.069` から `2.391` へと124%上昇する。 http://journalinsights.elsevier.com/journals/0306-4573/impact_factor
- **2017.05**: 上保先生とマイクロソフトリサーチアジアとの共同研究が、2016-17年度のMSR COREベストプロジェクトに認定される。 https://twitter.com/ISRTsukuba/status/868129667559038976
- **2017.04**: 于先生がNVIDIAのGPU Grant Programに採択され、GeForce Titan X Pascalを贈呈される。 https://twitter.com/ISRTsukuba/status/852806945861812224
- **2017.04**: 志賀さん (2017年博士前期課程修了) が筆頭著者の、会話における情報ニーズに関する論文が、SIGIR 2017にフルペーパーとして採択される（採択率22%）。 http://dl.acm.org/citation.cfm?id=3080787
- **2017.04**: ラミさん（博士後期課程2年）が、iSchoolsコンソーシアムから名誉あるiFellows奨学金を受賞する。 http://www.ischool.pitt.edu/ifellows/

研究室に参加するには

毎年10月に開催するオープンラボに参加することをオススメします。それまで待てない、という方は個別にメールをください。連絡先はホームページにあります。

右から：上保先生、ラミさん、ジョーダンさん、于先生（SIGIR2017にて）

横山研究室

横山研究室では、哲学的視点から、知識を巡るさまざまな問題を扱います。学生は、知識の本質、知識の限界、知識の共有等々さまざまな問題に取り組んでいます。

「哲学的視点から」の意味、卒業研究の二つの方向性

①主張したいことを言うために、哲学での議論を参照する。　たとえば、
　公案解釈に、ポール・グライスの会話の理論を使う。
　言霊信仰が非合理的ではないというために、オースティンの言語行為論を使う。
②哲学で問題になっていることについて、他の哲学者の議論を参照に論じる。　たとえば、
「心の性質や構造等はすべて物理学で説明できる」と考えることについて
「思考実験」は、哲学の研究方法として適切なのか。

現在のゼミの概要

現在のメンバー：4 年生 2 名　大学院生 1 名
研究室（7Ｄ543：後藤研と共有）
長期休暇の例外を除き、週 1 回のゼミ。ゼミの日時は、ゼミ生の 1 週間の予定を考えて、ゼミのメンバーが決まった時点で、相談して決めます。ゼミにかかる時間は、大体、2 時間から 3 時間です。一人一人が 1 週間でやってきたことを発表し、それに対して、ゼミ生と教員で議論します。それを人数分繰り返します。3 年生の内にテーマを絞り、4 年になってから先行研究の調査、中間発表後は、テーマについての考察というのが一般的な流れです。

2017 年度ゼミ生（4 年生）の現時点での研究課題

「ウィトゲンシュタインの私的言語論批判についてー哲学における直観使用の観点からー」
「演技の際の役者の感情ーメソッド演技法とウォルトンのごっこ遊びの比較を手がかりにー」

卒業後はどうするのか？

いろんな人がいます。大学院に進学した人、国立大学の図書館員になった人、故郷に帰って市役所に勤めた人、高校の数学の先生になった人、故郷の金融機関に就職した人、某大手パン屋に就職した人、人材派遣会社に就職した人、本当にさまざまです。どんな仕事についても役に立つ、問題を発見し、その問題について論理的に考え、問題を解決していく力を身に着けていただければと思っています。

興味のある方は、横山（mikiko@slis.tsukuba.ac.jp）までご連絡ください。

照山研究室

概要

現在のメンバー：4 年生 6 名、M1　1 名、M2 1名
研究室：7D517（常駐可。ソファー、PC 等あります。）
形式：週 1 回 2 限連続でゼミをしています。文献の輪読、調査報告等、担当者がレジュメを作って発表します。長期休暇中はゼミなし（各自じっくりフィールドワークに取り組むことを期待します）。
連絡先：teruyama@slis.tsukuba.ac.jp

メンバー募集

基本的には調査の方法として、「**フィールドワーク**」を伴う研究をサポートします。具体的には：

- 特定の場やコミュニティに所属する人々について研究する。（例）図書館、特定の店や寄り合い場、地域の集まり、自助グループ、患者会、社会運動グループなど
- その場所に何度も出向いて、そこの人々とともに時間を過ごし、一緒に活動に参加したりインタビューを実施したりする。
- 彼らとのコミュニケーションの中から、彼らが共有する文化、価値観、規範などを明らかにしていく。

といった研究を扱います。
フットワークが軽く、人と話すのが好きで、さまざまなことに問題意識をもって取り組める学生を募集します！

◆今年の 4 年生の研究テーマ◆
コム・デ・ギャルソンを着る人たち　–文化人類学的視点から–
保育園・幼稚園における諸問題　～職員の語りから～
性的マイノリティが形成する家族観
英語競技ディベートをどのように語るか　-ESS をフィールドとして観る-
日本に住み、働くということ　～東京近郊の町に住むベトナム人のライフストーリーを中心に
若年性乳がん患者と身近な人びとのコミュニケーションとケア

ゼミ生からのメッセージ

「学生各々が違ったフィールドで研究しており、毎回ゼミで話を聞く度に新しい発見があります！」
「それぞれの研究に意見したり、アドバイスしたり、みんなでわいわい話し合いながら色々な発見ができる研究室です！」
「人に話を聞いてみたい、自分で足を運んでみたい、自分の目で確かめたい、そんな好奇心旺盛でフットワークの軽い人にあってます」
「学生の考えを尊重しつつ適切な指導をしてくれる先生と、学生が積極的に意見を出し合えるゼミで、やりがいのある研究ができます」
「みんなで話し合い、高め合いながら研究したい人！自分の足で調べに行きたい人におススメな研究室です」
「各々が独自の興味・関心のもとにフィールドを設定し、主体的に調査を行える研究室であり、楽しく有意義な時間が過ごせます」

辻慶太 研究室

1. ゼミについて

- ゼミは週 1 回 1～2 時間です。
- 現在のメンバーは学類生 5 名，博士前期課程生 5 名，後期課程生 2 名，研究生 2 名です。
- ゼミ部屋は 1 階の 7B140 です。階段を上らなくていいというのが辻研最大の魅力です。

2. 研究テーマ

私はこれまで以下のテーマで論文を書いてきました。見事にバラバラです。大もとに一貫した問題関心があるわけではなく，流行に合わせて楽しそうな研究をしてきました。

(1) Wikipedia 閲覧者に対する図書館蔵書推薦システムの開発（2016 年～）
(2) 図書館の利用量を増加させるラーニング・コモンズの要素の特定（2014 年～2015 年）
(3) 貸出履歴等を情報源とした機械学習による図書推薦システムの開発（2011 年～2014 年）
(4) 公共図書館のレファレンスサービスと Q&A サイトの正答率比較（2009 年～2011 年）
(5) 司書資格取得者のその後の人生に関する追跡調査（2006 年～2008 年）

卒業研究もやりたいことを自由にやってもらっています。過去と現在の例は以下の通りです。

2017 年度	2016 年度
・ Web 上で自力解決可能なレファレンス質問 ・ 筑波大学生の同棲生活の実態調査 ・ 国大法人図書系の過去問の出題傾向 ・ マンガの複数のコマにまたがる吹き出しの研究 ・ 検討中（/≧ω≦）	・ 推理小説における叙述トリックの分類 ・ パスファインダーで紹介されている図書の特徴分析 ・ 海岸での溺水事故の原因に関する計量的研究
2015 年度	現在の大学院生の研究 例
・ 図書館における飲食の可否に関する実態調査 ・「カリスマ主婦」に見る女性のライフコース選択	・ Twitter 上の疑問への回答を呼びかけるサイトの構築 ・ 指定管理者制度導入館と直営館のサービス比較 ・ 図書館における飲食の可否に関する実態調査 ・ OA 誌と非 OA 誌の Impact Factor の比較

3. その他

- 階段を上らなくていいというのが辻研最大の魅力ですが，2 番目の魅力として過去の調査研究で用いた有害図書が読み放題という点が挙げられます。
- 無数にある辻研の短所の 1 つに「お金がない」というのがあります。国際会議でバリバリ発表したい（もちろん人のお金で）という方は他の研究室に行きましょう。

足腰に優しい立地

充実した有害図書

メディア心理学研究室の紹介

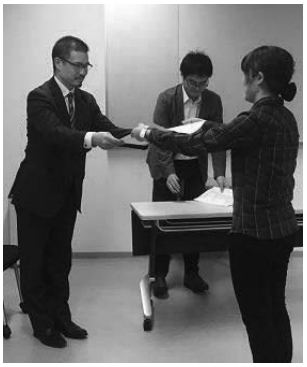
・教員：叶少瑜　　Email: shaoyu@slis.tsukuba.ac.jp
・研究室　教員：7D206 号室　　学生：7D330 共同研究室
・ゼミ指導：全体ゼミ（修論生とともに）による進捗報告とともに，必要に応じて個人指導による指導も行います。
★研究内容：主にメディア心理学のアプローチから，対人コミュニケーションにおけるメディア使用の影響を究明するため，主に量的調査法と実験法を用います。

本研究室では，現在以下のような研究を進めていますが，これらに限定されずに，コミュニケーションとメディアに興味・関心のある方を歓迎します。なお，本研究室は人を対象にする研究が多いため，性格が明るくて，フットワークが軽く，人間嫌いではない方を優先して受入れます。

【スマートフォン依存と個人特性】
スマートフォン依存になりやすい人はどういう性格特性の持ち主なのか，またスマートフォン依存になれば，より孤独を感じたり，抑うつを感じたりするのか．また，対面によるコミュニケーションとの関係によって，スマートフォン依存をどう捉えるべきかを検討しています．

【安心・信頼と異文化適応】
異文化コミュニケーションの視点から，内集団に対する安心感と外集団に対する信頼感がいかにソーシャル・サポート・ネットワークの形成と被受容感，及び異文化適応に影響を及ぼすのか．また，様々なメディアがどのような影響を及ぼすのかを研究しています。

【社会的寛容性とメディア使用】
相手が自分と同じ意見や考えを持たないと交流しない，Twitter/Facebook 上の投稿に対して「いいね」を押さない！あなたもこういう人なのでしょうか。メディアの使用が多くの利便性をもたらす一方，我々の他者に対する社会的寛容性を低減させてしまう恐れがあります。どうすれば使えばよいかぜひ一緒に考えましょう！



2016 年度卒論生渋木さんが学会発表にて優秀賞受賞

2016 年度卒論生内田さんが学群長表彰を受賞

高久研究室の紹介

研究室Webサイト: http://www.slis.tsukuba.ac.jp/takaku-lab/

- 教員: 高久 雅生（たかく まさお）
- 研究室（居室）　教員： 7D208室
  学生： 7D221共同研究室
- 学生数（2017年度）: 9名（学類4年次: 2名，修士: 4名，博士: 2名，研究生: 1名）
- ゼミ指導：研究室全体ゼミによる進捗報告（隔週）と，個人ごとの指導（毎週）を行い、研究を進めます。

✓ 図書館情報学と情報学の融合領域の真ん中を扱う研究室です。

✓ 「ひとの知的活動をアクティブに支援すること」を目標に，システムの構築や新しいアイデア，実装の提案といった多様なアプローチによる研究を行っています。

✓ こんなひとにお勧め

- ◻ 情報システムの力を借りて課題を解決してみたい
- ◻ 情報検索や探索支援の際の利用者の行動に興味がある
- ◻ 電子図書館サービスのための新しい機能やアイデアを実現してみたい

情報探索行動

情報探索行動とは，ひとが情報を求めて行動する様子を追跡し，それらにかかわる要因をモデル化し，探索支援システムへの応用等を図る研究領域です。近年では，ウェブ環境下での記録機器，ソフトウェア等の発達により，より精緻に情報探索の過程を計測し，情報アクセスのために役立てることが期待できます。

高久研究室では，探索過程の記録や，探索記録からの知識発見，探索者の知識変容の様子を捉える方法論の開発を目指して研究しています。

電子図書館

電子図書館は，既存の図書館サービスをデジタル資料やICTツールを用いて補完，強化し，新しいサービス機能を実現する研究領域です。情報検索やエンティティ同定，情報推薦，可視化，利用者行動の分析等の隣接領域の手法を応用したり，現場のニーズに基づいてサービスの分析や精緻化を行う役割が求められています。

高久研究室では特に，検索機能の向上，Web APIマッシュアップによる新しい機能の提案，デジタルアーカイブズの活用といった研究テーマのもとに電子図書館の実現に取り組んでいます。

情報検索

情報検索とは，対象文書群を適切に索引付けし，利用者の情報要求に基づき，ニーズを満たす適合文書を的確に返すための手法にかかわる研究領域です。利用者の情報要求の分析，文書構造の同定，文書の索引付け，文書ランキング，検索結果の評価等の手法に多くの研究課題が存在します。近年では特に文書種類や情報要求の多様化と高度化が見られ，ますます多くの研究が必要となっている研究領域の一つです。

高久研究室では，対象文書のジャンルを特定した検索システムの構築や，新しい検索手法，検索インタフェース，検索評価手法の開発を目指しています。

連絡先: 高久雅生

- Email: masao@slis.tsukuba.ac.jp
- Twitter: @tmasao

指導教官プロフィール

バールィシェフ、エドワルド（Eduard BARYSHEV）
7D415 研究室、内線　1347、baryshev@slis.tsukuba.ac.jp

研究分野（指導可能な分野）：

＊アーカイブズ学理論全般、
＊各国の文書館**やアーキビスト養成**、
＊国家機関（省庁）内の記録管理、
＊保存記録の管理・利用に関わる諸問題、
＊記録媒体と情報処理、
＊保存資料（史料）と歴史学

古代ローマの双顔神ヤーヌスのように、過去と未来を同時に見詰めているアーカイブズ学

WHAT ARE ARCHIVES?

①永久保存のために選別され、特別な施設で一定の国家機関・社会団体や個人の活動の証言として保存されている記録資料の総称、②上記の記録資料が保存されている機関および施設

⇒　社会的な進化とともに変容し、多様化してしまったアーカイブズは、今日、「国家や国民の生活から生まれた過去の諸データ」として再定義されつつあります。

保存記録（アーカイブズ）の管理および利用の様子（イギリス国立公文書館、ロンドン）

今日の社会が抱えている諸課題と対応策

イギリス国立公文書館の前

今日の情報時代において、アーカイブズは再び社会の注目を**浴びて**います。公文書やその他の記録資料の電子化、情報技術の普及等がアーカイブズの「通俗化」を促成し、社会科学の在り方を変えていると同時に、様々な問題を引き起こしています。

特に、情報資源の多様化およびその断片化は、記録資料の利用を困難にしているため、情報の分類整理やその管理事業が次第に重要性を増しています。国際的・地域的にみれば、アーカイブズの管理状態には、電子化の度合い、アクセス基準などに顕著に表れているような格差があり、それも情報資源の効率的な使用を妨げています。

この状況下において、日本の国内や国外における記録管理・保存に関す**る歴史と**現状を学ぶことにより、「国民の記憶」として**も**位置づけられる記録管理の水準向上を目指すことは大きな社会的な意義が認められる。

研究・指導方式

● **国際化の時代が求められる幅広い知識を目指しながら、比較社会学的な方法を頼りにして、学生の関心・達成目標に合った**個別的な**研究の**指導を行っています。

● 隔週、ゼミ方式の授業（2 時間程度）を行うとともに、個別で相談できる時間を設けます。

人類が今まで作り出した諸記録の遺産に関心をもち、
過去、現在および未来における「文書」の在り方について学び、
国際色のある独創的な研究に取り組んでいきたい人を、
研究室で待っています。

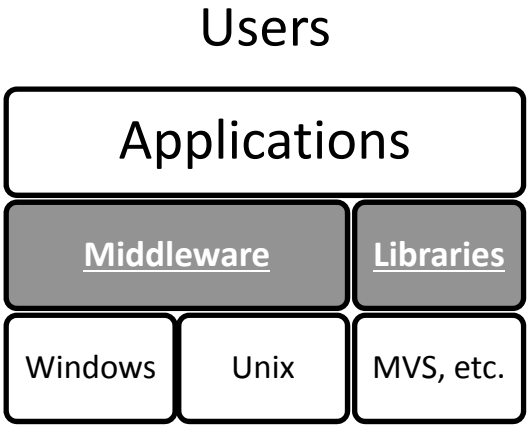
Dear students, I am waiting for your coming!

阪口研究室とは？

～快適な情報共有・伝達基盤を求めて～

どんなことをやるのか？

- 情報共有・伝達基盤技術を対象に
  - 情報の共有や伝達を快適に行う（大目標）
  - そのために様々なアプリケーションシステムが構築されている
  - 「快適」には「安全」や「安心」も含まれる
- その構築を支える技術の開発が元々の目的
  - アプリケーション構築で使うライブラリやミドルウェアのデザインと実装・検証
  - 例題としての構築そのものも対象にする
- 今使っているシステムは快適ですか？
  - そうでないなら改善を目指そう！



グレーの部分が本来の目標

現在の主だったテーマ類(他研究室と共同のものもあり)

- ■ Linked (Open) Dataの開発・接続・検索 (発見) の支援☆
- ■ マイクロタスク型Crowdsourcingプラットフォームの開発
  Crowd4U/FusionCOMPプロジェクトの一環

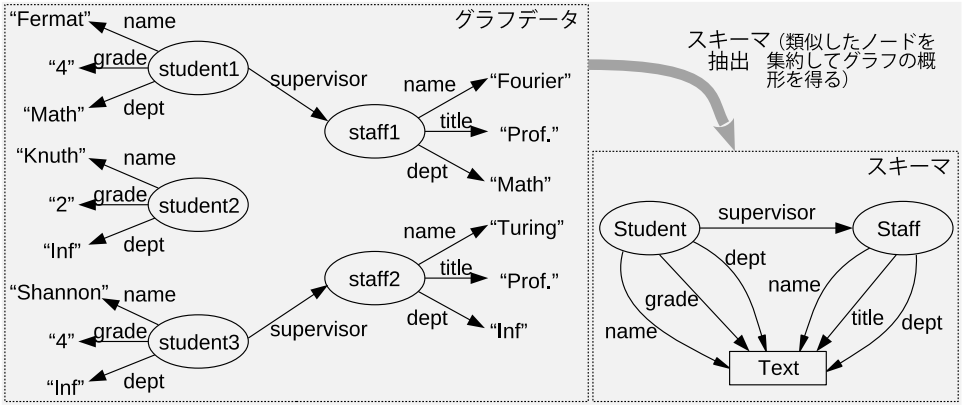
(これまでのテーマ例は下記Webページをご覧ください)

キャッチフレーズは「動いてナンボの阪口研」！
電気工学、ハードウェア、ネットワーク全7層、OSからアプリ、図書館学を学んだ指導教員によるアドバイス有：-)

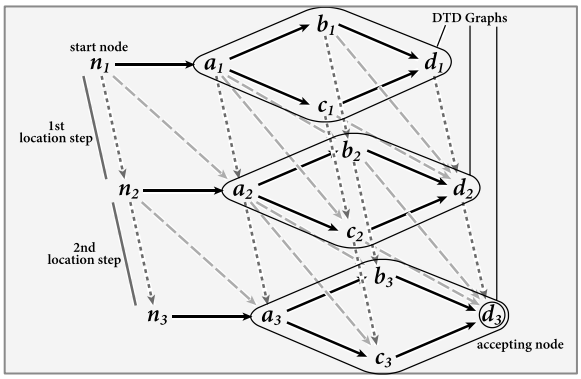
氏名: 阪口　哲男
Webページ: http://www.sakalab.org/
(3年生向けページはここからリンクします)
Eメール: saka あっと slis.tsukuba.ac.jp
研究室: 7D312 (普段は下記の共同研究室にいます)
共同研究室: 学系共同研究スタジオ3 (情報メディアユニオン3階)

鈴木伸崇研究室

当研究室は，グラフデータや XML/HTML など，主に「構造を内包するデータ」について研究を行っています．以下に主な研究テーマを示しますが，実際の卒研テーマは各自と相談の上決めていく予定です．老若男女を問わず，意欲のある方のご参加を歓迎いたします．



グラフデータ　近年，大規模なグラフデータが急速に増加しています．グラフデータを検索するための手法はいくつも提案されていますが，大規模なグラフデータは主記憶に収まりきらないため，従来の手法では効率のよい処理が困難です．当研究室では、外部記憶アルゴリズムの技術を応用して，大規模グラフデータにおける効率の良い検索アルゴリズム，スキーマ抽出（上図）や妥当性検証を行うアルゴリズムなどについて研究しています．



XML 処理　XML の標準的な問合せ言語 XPath を対象に，スキーマに適合しない XPath 式を正しい式に自動修正するアルゴリズムを開発しました．構造的に正しい XPath 式は通常複数存在するので，グラフ理論を応用（左図）し，ユーザの記述した式に近いものから順にユーザに提示できるようアルゴリズムを構成しています．このほか，MathML 式の分類・変換，DTD を用いた CSS の妥当性検証，XML スキーマ進化などについて研究を行っています．

電子書籍(EPUB)　自作の EPUB ファイルには表紙が与えられていないものが数多くあります．しかし，書籍の表紙は選書の重要な手がかりとなるため，書籍の内容に合った表紙を自動的に生成できれば有用であると考えられます．当研究室では，EPUB ファイルのテキストデータを解析して，その印象に合った色およびフォントの推薦を行うシステムを開発しています．

その他　上記のほか，やや物理寄りの研究（結晶の X 線/電子線回折画像における構造パラメータの推定）なども行っています．ご質問等ありましたら，鈴木(nsuzuki@slis.tsukuba.ac.jp)まで遠慮なくお寄せください．

学生数：院生５名＋学類生５名

ゼミ：週１回＋α

研究室：7D204（教員），ユニオン 3F 学系共同研究スタジオ３（学生）

研究室 Web ページ：http://nslab2.slis.tsukuba.ac.jp/

時井研究室

情報の可視化をテーマに研究を行っています。

知識の集約、伝達をテーマに

2016,2017 年度

AR+ 絵画鑑賞,知識集約, 身近な科学

Kinect + 浮世絵、オノマトペ、調理＋論理的思考

年間スケジュール

10 月　オープンラボ

12-2 月　基礎勉強、研究調査、
グループワーク:ミニシステム開発

3 月　研究会等で研究調査

4 月～　システム開発、実験、論文執筆

3 月　学会発表

どんな研究があるのか。どんな技術を習得してみたいか。
などなど、デモ展示をみて、これからの卒業研究をイメージし、
テーマを具体化していきます。

卒業研究で得た知識、技術を使って、展示などを行うこともあります。
現在(2017.08) コンテンツ制作中です。
みなでアイディア出しをして、スケジューリングして、制作スタート。

若林研究室

指導教員: 若林啓
場所: ユニオン4階客員研究室
研究室HP: https://wkblab.github.io

2017年度
メンバー構成
M2: 3名
M1: 2名
B4: 5名

研究テーマ

私たちの身の回りには、大量の情報が蓄積されています。近年、この情報をビッグデータとして分析を行い、データに現れる特徴を解明したり、未知のデータを予測したりすることへの利用に期待されています。
若林研究室では、大量のデータから本質的な知識を抽出する機械学習手法と、これをベースにした人工知能の研究を行っています。子どもは周囲の人が話す言葉を手がかりに自力でことばを学習していきますが、この過程では統計学習が行われていると言われています。統計的機械学習手法を発展させ、文章の意味をより深いレベルで認識させることで、高度な知識抽出や対話システムなどの実現を目指すことが本研究室のテーマです。

研究をすすめる上で望ましい条件

1. 実装力がある、あるいは実装力を身に付けたいという熱意がある
2. 必要なら数式にも立ち向かえる

研究室のみどころ

1. 自由な雰囲気で作業ができる
2. 最新の機械学習手法を学べる
3. 研究設備が充実している（個人PC（MacBook）貸し出し）
4. SlackやGitHubを活用した環境

https://wkblab.github.io

主な活動内容

1. 週1回の個別ゼミ
2. 手塚研究室との合同ゼミ・合宿
3. 自主的な輪講（深層学習など）
4. 新メンバー歓迎会

研究室の様子

手塚研と合同合宿

宇陀則彦・松村敦研究室紹介（用語集）

赤ペン先生
とある OB の別名。夜な夜なふらっと研究室に現れては卒研に迷う子羊の相談にのったり、卒業論文に赤を入れてくれたりする。長谷川先生と混同してはいけない。

雨男
宇陀先生の別称。雨が降ると「宇陀先生、近くにいる？」と言われる。体調がよいと嵐になり、体調が悪いと晴れる。

うだまつ研
宇陀研と松村研がゼミや合宿やイベントを共同で行うときに、まとめて呼ぶときの名称。

うっぴー＆コバルト
最近売れっ子の漫才コンビ。宇陀先生が即席でコバルト氏を巻き込んで漫才を始めたところ、あまりの即興のうまさにそのままコンビを組んでしまった。近未来図書館小劇場でのビブリオ漫才に出場予定。

うどん
松村先生の好物。つくばにはいいうどん屋がないので、第一回ゼミ合宿を香川にしたほど。東京授業の日に、こくわがたに寄るのが楽しみ。

エイリアン
共同研究室にある PC。長らく愛用されてきたが、2016 年 4 月、宇宙に帰った。

絵本
松村研のメインテーマの一つ。子どもにあった絵本をすすめるという課題に対して、実験、調査、システム開発と多面的なアプローチで研究している。絵本好きなら誰でもウェルカム！

王将
宇陀先生の青春の味。宇陀先生にとって王将とは「餃子の王将」のことで、「大阪王将」は認めていない。餃子の焼き方は店によって上手い下手があるとのこと。

お菓子大臣
研究室に常備されているお菓子の買い出しを担当する係。大臣と副大臣がいる。宇陀先生の指定により、黒豆せんべいは必ず買うことになっている。

オープンラボ
毎年 10 月の研究室選択の時期になると開催される。研究室パンフレットを準備し、先輩たちが後輩に直接研究室の説明をする。3 年生だけでなく、2 年生や 1 年生も来てかまわない。

俺の屍をこえていけ
3 月に開かれる反省会のこと。卒業研究を終えた 4 年生が新しく研究室に配属された 3 年生に向かって、卒業研究で失敗したことを話し、「俺のような屍になるな」という心の叫びを表明する会。ここ最近は開催されていない。

近未来シリーズ
学園祭で出展する企画名のこと。グランプリを 3 度受賞している。国立国会図書館のカレントアウェアネスに記事が載っている。

今週の松村研
松村研ゼミの冒頭で、この 1 週間にあった研究以外のことを話す時間。松村先生の家庭の話やゼミ生のバイトや部活の話など普段は見えにくい一面が見られて、親睦を深めるのに一役買っている。最近は、リア充ネタが多いことが問題となっている。

真の終電
つくば～柏の本当の終電のこと。松村先生が TX 通勤 7 年目の秋、パパ友の一言でそれまでの終電の概念が覆され「真の終電」が生まれた。真の終電が発動されるのは、真の修羅場だけ。

ゼミ
週一で行われる議論の時間。宇陀研は 1 時間もかからない。松村研は 5 時間におよぶことがある。個別ゼミを行うことがある。

JASRAC
宇陀研 OB の別名。え、そんなところに就職したの、と声にならない声で迎えられた。その後、自然にこう呼ばれるようになった。

第二次常川内閣
うだまつ研のゼミ頭として最も安定した時代のこと。総理大臣の常川まおまおさんを中心に、通信大臣、広報大臣、環境大臣、合宿特命大臣、近未来大臣など、一丸となってゼミ運営にあたった。

知識情報空間
宇陀研のメインテーマの一つ。知識創造を行う活動としての「場」に関わることなら何でもよい。知識について考えたい人はウェルカム！

チーム早起き
ある年、健康な研究室ライフを送るべく、有志によって結成されたチームのこと。中間発表会が近づくにつれて参加メンバーが減り、9 月の夏休みが終わる頃には誰もいなくなった。その後、二度と結成されることはなかった。

Ｄ５先輩
とある宇陀研 M1 の呼び名。D5 は博士課程 5 年目のことを指すが、4 年生のとき、メーリングリストで B と D を間違え、D4 と書いてしまい、修士の先輩からも「D4 先輩」と呼ばれるようになった。その後、順調に進級し、D5 先輩になった。

手書きスライド
某宇陀研 B4 が文字・絵も含めて全てを手書きで作った PowerPoint スライド。研究室を爆笑の渦に巻き込んだ後、着手発表会では吉田先生の絶賛を浴びたという伝説のスライドである。

なおちゃんＢＯＴ @naotyan_bot
なおちゃんの発言をまとめた bot。常に爆笑を巻き起こす彼女の発言を残しておこうという動きから実際に作成された。例「やせたーい（とんかつを食べながら）」。日々爆笑発言が繰り出されるため、登録が追いつかない。

７Ｄ２４０
我らが共同研究室。長谷川研とも共同。ソファー、電子レンジ、電子ケトル、冷蔵庫が備わっており、あとシャワーさえあれば暮らすことができる環境。発表会前や卒論提出前はお風呂に入った後、また戻ってきて夜を明かす人が続出する。7D240 にあるプリンタは複数の先生で共用しているので、出力を取りにくるとき、怪訝な目で見て去っていく。

びおるんワールド
某松村研 B4 が繰り広げる夢の世界。本人は日常的に夢の世界を行き来しているようで、無限に広がる妄想の世界に誰もがすぐに引き込まれる。卒論着手発表で、聴衆をおはなしの世界へと連れて行った実績を持つ。

ピザ
発表会直前などで、皆が焦りだすと先生が注文してくれる。経験則により、4 人に L サイズ 1 枚で計算するとちょうどよい。

プチ合宿
夏休みの 1 週間、教室を借りて（大抵 7A208）、朝から晩まで集中して卒研等を行う会。みんなで出前をとる昼食が楽しみ。過去、プチ合宿によって卒研が格段に進んだという例が多い。

フリーアドレス制
うだまつ研の特徴の一つ。7D240 は席が固定されておらず、どこでも気分に応じて自由に席が選べる。コミュニケーションが活発になり、知識創造が起きやすい。

まおる
常川まおまおさんの挙動、もしくはそれに類似した行動のこと。主な意味は道に迷うこと、反対方向の電車に乗ってしまうこと、しかも到着するまでそれに気づかないことなどを指す。「あ、まおってしまった」のように使う。類語に「かなえひぇる」がある。

洸雄
「みつお」と呼ばれるゼミ生の名前。正しく読まれたことはこれまで一度もない。ご両親も「みつお」と認識しているらしい。

もいマスター
moi!kka をこよなく愛するケンシロウの恋人と同名の M2 のこと。moi!kka 内部に潜入し、その全てを知り尽くしている。口癖「もい〜」

図書館情報メディア系・ 情報学群 知識情報・図書館学類　　主宰: 教授 佐藤哲司

コンテンツ工学研究室

コモディティ化について考えたことありますか？石鹸やシャンプーのように広く普及し一般化した商品は、洗浄力という本来の機能では差別化が困難になることを言います。携帯電話・スマホもコモディティ化が進み、物だけでなくサービス・情報も『**使い捨て消費財**』になってきています。

佐藤研究室では、コモディティ化が進む情報化社会において，新たなサービスを創出する社会的な資本（ソーシャルキャピタル）の形成・変容過程を、機械学習や確率・統計などの工学的なアプローチによって解明することに取り組んでいます。他にも、学習支援・健康支援、映画や図書などの情報推薦など幅広く研究しています。現在10人のゼミ生が所属しており、週1回のゼミでは、ゼミ生同士でそれぞれの研究について、熱い議論を交わしています。

ソーシャルキャピタルの形成と変容

信頼・規範・ネットワーク

情報革命
21世紀～
情報の大量生産→知的豊かさ
ソーシャルキャピタルが拡大再生産の源
1993年 ロバート・パットナム（政治学者）
人々の協調行動を活発にする
社会的仕組み

コミュニティの形成過程の解明
参加者のモチベーション変容の解明
→ **ウェブサイエンス**

産業革命
18世紀～
物の大量生産→物的豊かさ
キャピタル（資本）が拡大再生産の源

農耕革命
紀元前1万年～
食料の増産→人口急増

CE-Lab. The Frontier of Content Engineering

主な研究領域

Twitter
200億件を越える収集済みツイートデータを用いて様々な研究を展開しています。具体的にはユーザの属性や投稿傾向、フォロー/フォロワーネットワークの分析など，機械学習や社会ネットワーク分析などの手法を用いて研究しています。

Q&Aサイト
知らないことを知る質問サイトですが、ユーザが望む答えを得るためにはどのような質問文が最適なのでしょうか？ 類似の質問を参照することで質問者はより良い質問文を作れるのでは？という疑問からスタートした研究をしています。

調理レシピ
Cookpadより提供されたデータを使い、レシピに関する研究をしています。これまでに、ユーザの習熟度に応じたレシピの推薦や、レシピを介したコミュニティの特徴分析、健康に配慮した毎日の献立の提案などの成果を上げています。

その他
- Neural Networkの可視化
- 商品レビューからの購買行動分析
- SNSでのユーザ推薦手法
- 学習時の姿勢動揺や自転車のふらつき原因の解明など

この他にも「コンテンツ工学」という枠におさまらない様々な研究がされています。
お問い合わせは pub@ce.slis.tsukuba.ac.jp まで

手塚研究室

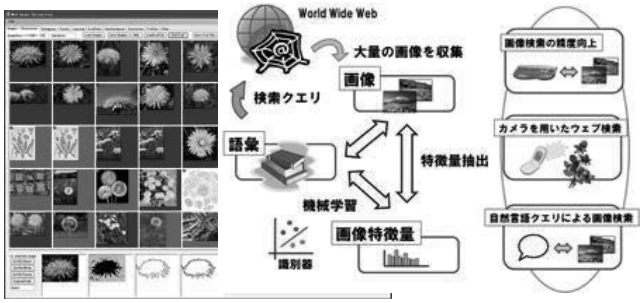
手塚研究室ではデータから有益なパターンを発見し、構造化された知識を得るためのプログラムの開発を行っています。センサ技術や通信ネットワークの発展によって膨大な量の電子的なデータが蓄積されている現在、これらの手法には幅広い応用があります。具体的な研究対象として、特に画像と神経細胞の活動データ（時系列データ）を主に扱っています。

研究室では毎週、輪講やゼミを行っています。輪講では基礎的な技術に関するテキストを用いて学生が順に発表し、理解を深めています。ゼミでは各自の研究の進捗を発表して ディスカッションを行い、問題の解決に向けての検討を行っています。夏休みの合宿やスポーツイベント、鍋などを通して研究室内での親睦を深めるようにもしています。データを解析する力、問題について深く考え、解決を模索する力は実社会に出ても必ず役に立つと思います。

研究室Webページ：http://xi.kc.tsukuba.ac.jp

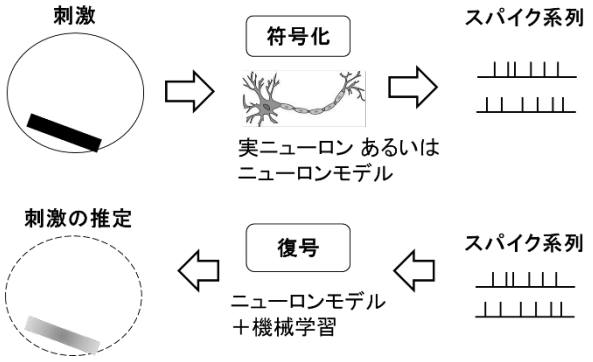
画像処理

近年注目されている深層学習（deep learning）の手法のうち、画像処理に広く使用されている CNN (Convolutional Neural Network) を用い、新たなアプリケーションを開発する研究を行っています。また、GPU を用いたパラメータ推定の高速化の研究にも取り組んでいます。



神経活動データの解析

神経細胞間ではほとんどの情報が活動電位（スパイク）によって伝えられるとされており、脳における情報表現の理解においてスパイク系列の解析は欠かせません。スパイク系列の間に類似度や距離を定義する研究は以前から行われていますが、近年ではより幅広い用途に使用できる正定値カーネルをスパイク系列上で定義する手法が提案されています。手塚研究室ではこれまで研究されてきた単一ユニットのスパイク系列に対するカーネルではなく、多ユニットのスパイク系列（多チャネルスパイク系列）上のカーネルについて研究を行っています。



緑川研究室

私の研究室では情報組織化論，特に，分類の研究を行っています。分類とは，同じ性質をもつものどうしを集めること，あるいは，異なる性質をもつものどうしを分けることです。分類に関する研究には，分類するという行為に関わる研究と，分類されてできるものに関わる研究があります。

分類という行為に関する研究として，たとえば，弓道のわざを獲得する過程におけるカテゴリの使用という卒業研究がありました。弓を引くときの手順を足踏み，胴造り，弓構え，打起し，引分け，会，離れ，残身と８つに分け，さらに足踏みを，的の中心を見定める，無理な力を入れないように注意する，などの行為に分けます。これらの行為を「見る」，「入れる」，「反らす」などのカテゴリに対応づけることによって，わざを獲得する過程でどのような意識が働いているのか（どのようなカテゴリの行為を選択しているのか）を考察しています。

分類されてできるものに関する研究はいろいろありますが，たとえば，本の推薦システムにおけるカテゴリの有効性に関する修士論文がありました。アマゾンのデータを利用して，アマゾンの推薦本を被験者にそのまま推薦する場合とカテゴリを考慮して推薦する場合との比較，また，後者において考慮したカテゴリを利用者に提示する場合と提示しない場合の比較を行いました。この研究では，分類されてできるカテゴリが，本の推薦にどのような効果を及ぼしているのかを考察しています。

分類されてできるものの代表として分類表がありますが，分類表に関する研究も行われています。落語の検索システムに役立てるために，落語の噺の種類とオチの分類表を作成した卒業論文がありました。噺の種類は，「扱う世界（野外，家の中，寺，死後の世界など)」，「登場人物の身分・職業（番頭，武家，丁稚，医者など)」，「登場人物の性格・性癖（酒呑，粗忽，強情など)」，「噺の主題（金，道楽，人情，旅など)」などいくつかの観点から分類表を作成しています。また，オチについては，「間抜けオチ」，「地口オチ」，「途端オチ」，「オチなし」などの項目からなる分類表を作成しています。

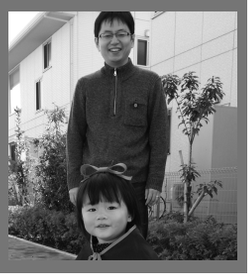
私自身は図書館分類法の研究を行っています。特に最近は図書館分類法の歴史が主な研究テーマです。一方，図書館分類法研究の新しい動向としてオントロジに関連する話題があります。シソーラスなどに適用できるように開発された一種のオントロジ記述言語 SKOS を用いて図書館分類法を表現する研究を，現在，博士論文で行っている人がいます。図書館分類法を SKOS で表現することにより，Linked Data として Web 上で活用しやすくなります。

以上のように，分類の研究はとても幅が広いものです。

受入学生数は 3 人までで，今年度は 2 人です。原則として週 1 回ゼミを行います。調べてきたことについて，私が助言をしたり，みんなで意見を出しあったりします。3 年生の 12 月に所属が決まったら，まず研究テーマを絞るために関連研究の文献読みを行います。3 年の春休みから 4 年の夏休み前までは文献を読みつつ，調査の設計を行い，可能であれば一部調査を実行します。夏休みに本格的な調査を行い，10 月の中間発表でその結果を報告します。その後，調査結果をもとに考察を行い，書けるところから論文を執筆していき，12 月に提出します。

コミュニケーション理解研究室

関 洋平
筑波大学 図書館情報メディア系
yohei@slis.tsukuba.ac.jp



コミュニケーション理解研究室では，人間の言語理解の過程を明らかにしつつ，
人と人あるいはコミュニティとをつなぐ**コミュニケーションの支援**や，
ソーシャルメディア上に現れる実生活において必要となる情報へのアクセス支援について研究を進めています。

2010 年 12 月 ~
教員：1 名
学生：5 名
OB・OG：20 名

自分の興味を見つける努力をしてください。
企業や自治体との研究交流を積極的に進めています。
（NTT，楽天，富士ゼロックス，きざしカンパニー，つくば市，水戸市）
- つくば市との共同研究（Wikipedia Town 筑波山）が 4 月 25 日付の常陽新聞に掲載
- 水戸市との共同研究（Twitter で市民の声把握）が 8 月 6 日付の日本経済新聞に掲載

教員室：7D-213，学生研究室：7D-140
研究室 Web サイト：http://cu.slis.tsukuba.ac.jp

ソーシャル情報アクセス

ソーシャルメディアに現れる多くの情報を利用して，クリエータを検索したり
既存のサービスとは異なるランキング手法を提供

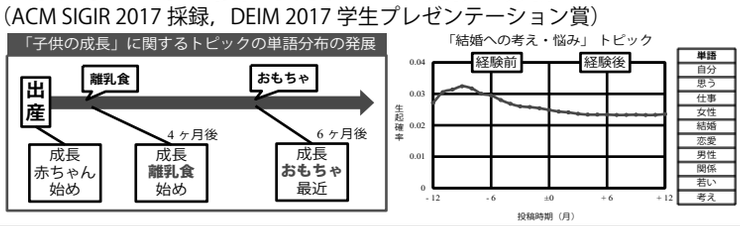
音楽のジャンルと印象を用いた VOCALOID クリエータの検索

（人工知能学会 論文誌採録）

© Crypton Future Media, INC. www.piapro.net

ライフイベントに依存したトピック推移の分析

（ACM SIGIR 2017 採録，DEIM 2017 学生プレゼンテーション賞）



調理手順類似度と料理画像類似度に着目した重複レシピ投稿者の判別（CEA 2017 採録）

投稿型レシピサイトを横断した重複レシピの判別（DEIM 2016 優秀インタラクティブ賞）

人気レシピの内容的特徴に着目した実用的レシピの判別
（CEA 2014 採録 , Best Paper Award）

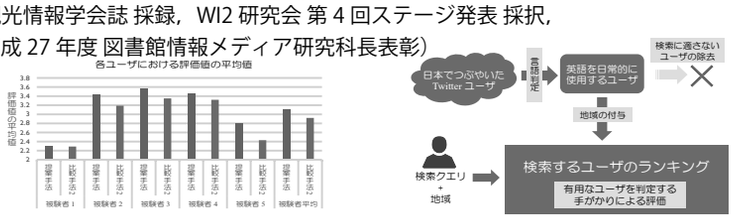
閲覧者による印象を考慮したイラスト投稿者の検索
（ACM SIGIR 2013 採録）

スマートソーシャルシティ

ソーシャルメディアユーザの情報を分析したり，オープンデータを活用することで
行政サービスの活性化を支援

外国人観光客の相談相手となりうる Twitter ユーザの推薦

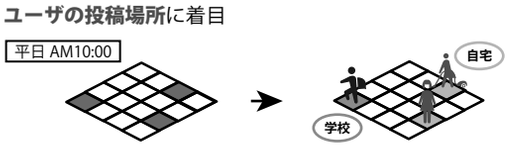
（観光情報学会誌 採録，WI2 研究会 第 4 回ステージ発表 採択，
平成 27 年度 図書館情報メディア研究科長表彰）



Twitter ユーザの投稿場所を考慮した属性推定

（ICADL 2016 採録，平成 27 年度 情報学群長表彰）

ユーザの投稿場所に着目



ユーザが特定の時間帯に投稿する場所は属性ごとに異なる

半教師ありトピックモデルに基づく Twitter ユーザの地域推定

（情報処理学会論文誌 TOD 採録 , IFAT ヤングリサーチャー優秀賞 ,
DBS 研究会学生奨励賞 , 平成 25 年度図書館情報メディア研究科長表彰）

地域ユーザに着目した口コミツイート収集手法の提案

（DEIM2016 学生プレゼンテーション賞）

パブリックコメント投稿者を支援するための行政文書の分割

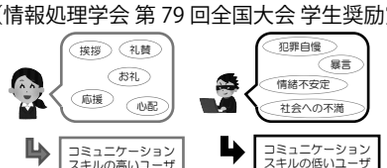
（平成 26 年度 情報学群長表彰）

ソーシャルコミュニケーション支援

ソーシャルメディアにおける，より使いやすいコミュニケーションのあり方の提案
新たなコミュニケーションサービスの提供

投稿パターンを考慮したコミュニケーションスキルの分析

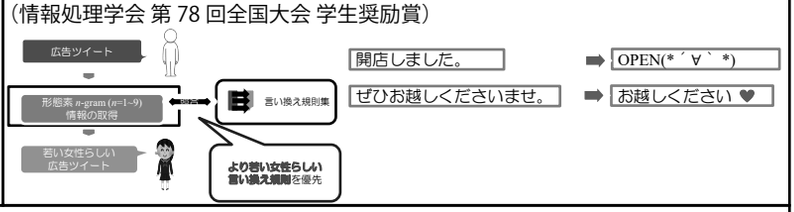
（情報処理学会 第 79 回全国大会 学生奨励賞）



コミュニケーションスキルの低いユーザは
特定の時間帯 (深夜帯) に集中して投稿

宣伝効果を促進するための親しみやすいツイートへの言い換え

（情報処理学会 第 78 回全国大会 学生奨励賞）



感情推定に基づく顔文字推薦システムの構築
（言語処理学会論文誌 採録 , 情報処理学会 山下記念研究賞 ,
日本語学論説資料 掲載）

読者の感性を発信・共有するためのソーシャル付箋
（電子情報通信学会論文誌 採録，平成 24 年度 情報学群長表彰）

Twitter 特有のコミュニケーション表現の抽出
（平成 25 年度 情報学群長表彰）

HITLAB

逸村研究室

Episode XIV

THE OPEN LABORATORY

10月中旬に行います　7D340

研究分野

大学図書館、学術情報流通、情報探索行動、オープンアクセスを研究テーマにしています。

所属しているゼミ生

B4が3人、M1が2人、M2が4人、Dが4人おり、逸村先生に加えて先輩方からの論文作成やプレゼンテーションのアドバイスを受けられます。さらに、社会人院生や研究生もいます。

ゼミについて

週に1回程度、学類生と院生が合同でゼミを行います。研究発表会や大学院入試の直前はゼミ開催の頻度が増えます。また春と夏に他大学と合同で行うゼミ合宿があります。

Contact:hits@slis.tsukuba.ac.jp

研究環境

逸村研究室は共同研究室7D340に所在しています。ゼミ生に対してそれぞれ席とPC)が与えられます。他にも、プリンターやスキャナー、おやつが完備してあります。

年間スケジュール(一例)

2017年10月：オープンラボ

2017年12月：研究室仮配属

2018年1~2月：研究テーマの構想

2018年3月：春ゼミ合宿@初島

2018年4~5月：着手発表の準備

2018年6月：着手発表会

2018年7月：中間発表の準備

2018年9月：夏ゼミ合宿@蓼科

2018年10~11月：卒業論文執筆

2018年12月：卒業論文提出・最終発表の準備

2019年1月：最終発表会

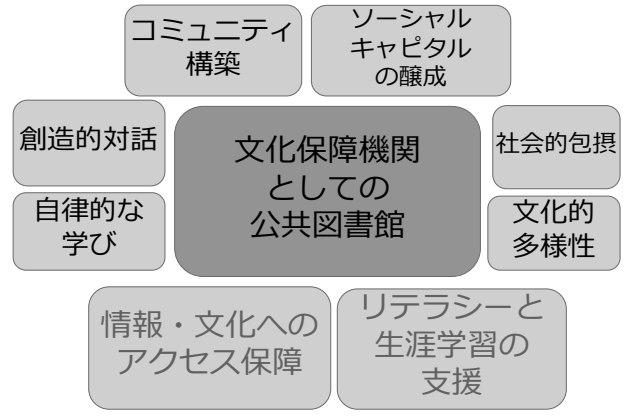
2019年3月：春ゼミ合宿・卒業式

研究室紹介　吉田右子（研究室116）
yyoshida@slis.tsukuba.ac.jp

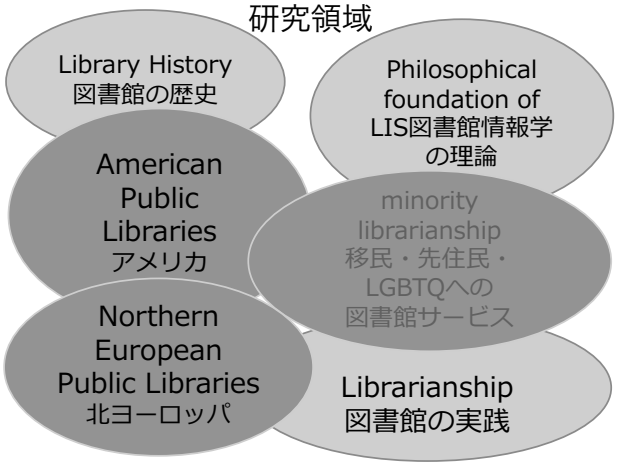
ゼミ募集人数：３名
ゼミの頻度：週１回

BIBLIOTEKET Rentemestervej, København Danmark

図書館研究の射程



研究領域



研究テーマと研究方法

（１）生涯学習の空間としての公共図書館の役割に関わる実証的研究
（フィールドワークを中心とする研究です）

（2）公共図書館の理念および実践にかかわる歴史的研究
（文献を使った地道な研究です）

Hovedbiblioteket, Aarhus Danmark

研究室配属から卒研提出まで

12月	研究方法について学びます
１月	研究テーマについていろいろな角度から検討します
2月	先行研究の調査【ミニ発表会】
3月	研究テーマの確定【春休み・ゼミはお休み】
4月	研究方法と論文構成の検討・予備調査と執筆の開始
5月	予備調査
6月	【着手発表会】研究方法の確定・本調査の計画
7月	本調査
8月	本調査【夏休み・ゼミはお休み】
9月	調査の中間まとめ・研究構成の再検討
10月	【中間発表会】追加調査
11月	追加調査の取りまとめ
12・1月	論文の総仕上げ・提出・【最終発表会】

卒業研究テーマと進路

- アメリカ・カナダの公共図書館におけるセクシュアルマイノリティに対するサービス
- 北欧の公共図書館におけるIT利用支援サービス
- オーストラリアにおける先住民族に対する公共図書館サービス
- 東南アジア諸国のコミュニティ学習センターにおける図書館の役割
- 教育格差を背景とした子どもへの学習支援の実態
- インドネシアにおけるメディア環境の変化を背景とした読書の実態

【主な就職先】
- 横浜市立図書館・福島県立図書館・成田市立図書館・新潟市図書館・神戸市立図書館
- 名古屋大学・長崎大学・東北大学・東京芸術大学
- 東京消防庁・下仁田町森林組合・小金井市

Hovedbiblioteket, Drammen Norge

原 研 究 室

◆研究内容はどんなものですか？

指導教員の原 淳之です。私たちの研究室には、社会の中で図書館や読み（リテラシー）の問題を考えることに興味がある学生がよく集まっています。ゼミ生の関心は、例えば、詩の読者が受ける感動と言葉の秘密とか、ネット上の読書ブログや書評サイトの情報は本の選択でどんな役に立っているのかとか、どうしてファンタジーはこれほどヤングアダルト層に読まれるのか、子ども雑誌というメディアはどのように誕生したのか、女性雑誌は女性のライフスタイルにどのように関係してきたのか、など多様です。

◆卒業研究ってどんなふうに進めるんですか？

研究方法は明らかにしたいテーマによって何がふさわしいかを考えながら進めます。質的・量的分析のどちらも考えられます。テクストにおける語の出現頻度を分析したり、インタビュー調査をすることもあります。そのさい、事実やデータに基づいた客観的な研究とは何かを考えながら進めます。みなさんはレポートを書くときに、感想のような考察になってしまったことはありませんか。研究ではそうならないように注意しなくてはなりません。研究方法が多様であるせいか、研究室には高校のときの文系、理系を問わず、どちらの学生もこれまで所属しています。

研究指導は研究室で週１回のペースで行います。全員で集まって研究報告をしたり、ディベートをしたり、また、個人指導をすることもあります。研究テーマを相談しながら決めたり、みんなで研究方法を考えたり、発表会前にはプレゼンの練習をしたりもします。

あと、指導教員は、ドイツのテュービンゲン大学日本文化研究所やベルリン＝フンボルト大学の図書館で仕事をしたことがあり、その経験からドイツに出張することも何度かありました。ドイツの図書館は日本とはかなり異なっています。そのことに興味がある学生もいましたら相談して下さい。

研究室でのゼミの様子

◆研究室の雰囲気は？

明るくて賑やかです。《楽しい企画》もあります。みんなでゼミ旅行（軽井沢、湯西川温泉など）に行き、バーベキューや花見をした年もあります。今春は日帰りでディズニーシーにも行きました。ところで、《就職先》ですが、国立大学法人等職員（図書・事務）、独立行政法人の職員、都道府県・市町村の公務員（図書館勤務を含む）の他、映像・音楽エンタテインメントの商社、公益法人、SE など、先輩は全国の幅広い地域で仕事をしています。研究室を訪ねて来てくれる先輩もいるので話を聞くことができます。ちなみに、現在の４年生は４名です。

◆他に学生に伝えたいことは？

研究テーマは最初からきちんとしていなくても、一緒に良いテーマに洗練させていきます。興味のあることが良いです。話を聞いてくれる先輩もいます。あまり難しく考えず研究室訪問をして下さい。研究室訪問の希望をメールで送ってもらえれば、面談のための時間をお返事します。

◆ゼミ生による研究室紹介
―気兼ねなく発言できる雰囲気―

私たちの研究室は週に１回のゼミがあります。ゼミの後もみんななかなか帰らず、もろもろの雑談をワイワイ楽しくやっています。４年生になると授業がほとんどなく、なかなか学類の友達と会うこともなくなってしまうので、週１でおもいっきりおしゃべりをし、良いストレス発散になっています。私は都内で企業に就職活動をしてきましたが、面接の場で自分の卒業研究のことや最近の出来事を聞かれることが多くありました。卒業研究の説明はゼミ内で随分やってきたおかげでスラスラと話すことができましたし、みんなで話した内容は研究に関わりのないことでも良い話の種になりました。悩んだり挫けそうになった時も、みんなに話を聞いてもらったり、応援してもらったり。就活を無事に切り抜けられたのはこの研究室だったからだと言っても過言ではないです！

また、私たちは《よく遊び！よく学べ！》をモットーに楽しい企画もたくさん立てています。３年生の３月には新潟にスキー旅行に行きました。この旅行は雑談でポロっと出た話が盛り上がって実現したものです。６月には他の研究室の友達も誘ってバーベキューをしましたし、研究室のメンバーの誕生月にはケーキを用意して誕生日パーティーも行っています。何かやりたいことを言うと先生も含めた全員が聞いてくれて、積極的に持ちかければどんどん実現します。このように、研究に関することでも、雑談であっても、自分の意見を気兼ねなく発言できる雰囲気が原研究室の何よりの魅力なのではないかと思います。

（研究室ＯＧ　武田未来さん）

情報法研究室

1 研究室の概要 石井研究室では、情報に関わる様々な法的問題を研究しています。日本には「情報法」という法律は

ありませんが、個人情報保護法や著作権法のような、耳にすることの多い法律から、電気通信事業法、景品表示法、プロバイダ責任制限法、特定商取引法、リベンジポルノ禁止法のような、あまり馴染みのない法律まで、民事法・刑事法・行政法の多岐にわたる法律が情報法のカテゴリに含まれます。数年前には、マイナンバー法が話題になりましたが、この法律も情報法の 1 つです。また、法学研究を行う上 では、実務を動かす判例の動向を研究することが非常に重要です。

情報技術が高度に発展する中、情報に関わる法的問題も様々な場面で生じています。法学は地味な研究分野ですが、石井研究室では、皆さんに好きなテーマを選んで頂き、自立心を持って研究に取り組んでもらっています。

2 活動

1) 指導体制等

石井研究室では、学期中は 1 週間に 1 度のゼミを行っていますが、指導学生の就職活動の都合など に応じて、個別指導も随時行っています。卒研発表会の後は飲み会を行う年もあります。法律系のゼミで すので、公務員や教員志望の学生が比較的多いと思われがちですが、民間企業に就職する学生も多く 在籍してきました。

卒研生の皆さんには、例年、3 月頃までに研究テーマを確定し、着手発表までに研究背景、目的、全体構成を整理し、中間発表までにできる限り執筆を進め、11 月頃から考察の章を検討してもらっています。法律系の研究は執筆分量が多くなりがちですので、遅くとも 12 月からは考察の章を執筆できるように進める必要があります。専門家の方に意見を聞く場合もありますが、基本的には文献調査で研究を進めていきます。ゼミの人数は、少ない年で 1 名、多い年で 5 名が在籍しており、平均すると 3 名程度です。ゼミに出席できない場合は、メールでも随時指導を行っています。

2) 居室

・石井：7D509

・共同研究室：7D540(2017 年 9 月 1 日現在)

3) 卒業研究テーマ(平成 25 年度以降)

・平成 27 年度 サイバー犯罪に関する刑事
法的考察 インターネットにおける実名制
導入の是非
インターネットにおける事業者情報の名誉棄損に関する考察

・平成 26 年度 図書資料の規制と図書館の自由―プライバシー権
侵害を中心に－
日本における文化的活動の保護と制限をめぐる考察－文字・活字文化を中心に－インターネット上の個人情報の削除請求権パブリシティ権の法的性質に関する考察

・平成 25 年 違法・有害情報とインターネット上の青少年保護秘密保全法
の意義と課題

3 連絡先

kaoriish@slis.tsukuba.ac.jp

著 作 権 法 の 研 究 室

研究室について

著作権法を中心に、知的財産法（特許法、商標法、不正競争防止法など）に関する研究を行います。研究手法としては、判決や論文等の文献に基づいて、条文等の解釈論、あるいは立法論や制度のあり方を論じます。原則として、学期中週１回ゼミを行います。ゼミでは、各自の研究成果を報告してもらい、報告内容について議論を行います。

主専攻：情報資源経営主専攻
指導教員：村井麻衣子
募集人数：3 名
現在のメンバー（2017 年度）： 学類… 2 名　　オブザーバー（M2）… 1 名

著作権法の研究とは？

著作権法は、情報の一定の利用行為を法的に規制するものです。そのため、権利者の利益と利用者の利益のバランスをいかに図るかが課題となります。法律のあり方は、社会的・技術的な環境により大きな影響を受けます。現代の社会にとって、よりよい著作権法とはどのようなものか、皆さん自身で考えてみてください。

研究テーマの決め方

自分の興味のあるテーマを選んでください。判例評釈（特定の判決についての解説）を書くつもりで一つの事例（判決）を中心に検討してもよいですし、法律上の論点や制度を取り上げてもかまいません。

例えば・・・2017 年度のゼミ生の研究テーマ
・ゼロ、ハチ、ゼロ、ナナ。事件（小説のドラマ化と契約、同一性保持権の濫用など）
・自炊代行訴訟控訴審判決（私的複製に関する論点を中心に）

ゼミの進め方・全体スケジュール

ゼミでは、著作権法の基礎を確認してから（目安：12 月～ 3 月）、各自のテーマに関連する資料の内容の発表してもらったり（目安：春 AB 頃まで）、自分の卒業論文の一部を発表してもらう（目安：春 C 以降）という形で進めます。着手・中間・最終発表会の前には、発表資料の確認や発表練習を行います。10 月～ 11 月頃までに論文の初稿を完成させることを目指し、11 月～ 12 月にはその修正や最終発表会の準備を行うイメージです。

関連科目

「知的財産概論」、「知的財産権論 A」、「情報社会と法制度」、「情報法」などの法律系科目が関連します。研究室を希望される場合は、「知的財産概論」、「知的財産権論 A」を履修していることが望ましいです。特に、「知的財産権論 A」では、裁判例や文献の調べ方などについて実践的に学ぶことができるので、この分野に興味のある方は、ぜひ履修してください。

詳しくは・・・卒業研究指導方針を参照してください。質問などがあれば、メールで連絡してください。

学校図書館に関する研究室：学類から博士後期課程まで一貫した研究体制

平久江研究室（研究室 404）hirakue@slis.tsukuba.ac.jp

研究の概要

本研究室の研究テーマである学校図書館は，身近な存在であっても，あまり研究対象とは認識されない，そんな研究領域です。図書館としてみると，施設・設備の規模から，その研究領域の間口は決して広く感じられないと思いますが，これを学習環境や教育機関として捉え直したしたとき，多くの学問分野と繋がり様々な研究アプローチが見えてきます。そうした学際的な学問領域が学校図書館の研究領域です。

例えば，関連する研究領域としては，教育学，情報学，経営学，社会学等が挙げられます。

学校図書館ミニ知識

- 1990年代後半から，学校図書館の現代化が進められてきました。1997年に学校図書館法が改正され，司書教諭の配置が進められました。そして，2014年に学校図書館法が改正され，学校司書が法制化されました。また次期の学習指導要領改正によりアクティブラーニングへの支援が導入されました。
- 学校図書館の研究は今後重要性がさらに高まるものと考えられます。

共同研究室7A430室でのゼミ風景

主な研究領域

- 図書館情報学と教育学等の学際的な研究領域
  ⇒ 学校図書館に関する研究

KW：利用指導，管理運営，外国研究，連携協力等

学校教育において学校図書館をどのように効果的・効率的に経営し活用していくかについての研究

- 学校図書館（学習情報センター）における学習支援等のサービス提供
- 学校図書館と社会教育機関との連携・協力（公共図書館，博物館，文書館等）
- 学校図書館における情報リテラシー教育（言語活動の充実）
- 国内・国外の学校図書館の運営と専門職員の養成

主な研究のアプローチと特徴

一貫して学校図書館の研究を行う国内唯一の研究室で，本学類の中でも大変ユニークな研究領域

卒業研究の進め方とゼミ生数

[今年度の予定]

- 12月～3月上旬
  基礎的文献を読んだり，レジメの作成法，発表方法，研究テーマの絞り込みをします。
- はじめは3年生だけで実施し，後半は4年生や院生と一緒にゼミを行います。
- 4月頃～
  卒業研究の本格的に開始し，研究テーマを決定し着手します。

[受入予定人数] 3名程度

[ゼミ生数]

- 学類生 5名
- 博士前期学生 3名
- 博士後期学生 12名

[受け入れ方法]

- 事前にメールで連絡し，所定の面談用の用紙を提出し面談をします。

近年の卒業研究と主な進路

[卒業研究のテーマ]

- 図学校図書館におけるアウトソーシングの現状と課題
- 小学校図書館におけるサインシステムの現状と課題
- 学校図書館におけるキャリア教育支援
- 学校図書館における参加体験を通した学びへの支援：読書会の活動を通して
- 公共図書館の郷土資料の調べ学習への活用 学校司書の研修制度の在り方
- 中学校における学校図書館に対する生徒の満足度
- 道徳教育における読書指導：道徳心の育成を中心に
- 読書指導における読書感想文の現状と課題

[学類ゼミ生の主な進路]

- 筑波大学博士前期課程
- 栃木県庁(行政職)
- 大阪府立図書館（司書職）
- ゆうちょ銀行（総合職）
- 武蔵野生涯学習振興事業団（行政職）
- 国際女性教育会館（司書）
- 九州大学図書館（司書）
- 航空集配サービス株式会社
- セザックス株式会社
- NTTーATコミュニケーションズ株式会社

綿抜豊昭研究室

研究分野について

・日本の文化に関することで、時期は明治ぐらいまで。

・今年度は、「俳人」を研究対象とするゼミ生と

「辞世歌」を研究対象とするゼミ生の二人です。

学生の人数

・毎年度、三人を上限としてます。

年間スケジュール，卒業論文執筆の流れ等

・ゼミ生一人ひとり個別に対応してます。

ゼミの頻度

・だいたい週に一回です。

・飲食に留意しなければならないので、合宿、飲み会等、団体ゼミ活動はしません。

その他

・中央図書館の秋の特別展示を行います。是非、御覧ください。

メディア・インタラクション研究室

今日、私たちはメディアを通じて映像やコミュニケーションを楽しんだり、多くの有用な情報を得たりしています。一方で、有害な映像コンテンツや情報に触れたり、トラブルにあう機会が増えたりするなどの危険もあります。本研究室では、個人のメディア利用、図書館や学校などのさまざまなメディア環境の現状と課題、メディア利用やメディア環境が及ぼす影響などを検討しています。

このような研究を通して、メディアの悪影響を避け、有効に利用していくためには？、より快適なメディア環境を整えていくためには？などについて考えていきます。

教員：　鈴木　佳苗

研究テーマ：　「読書やインターネットなどのメディア利用の影響」「メディア教育の実践とその評価」「学校や地域における子どもと読書にかかわる取り組みの実践と評価」「児童図書館サービスの現状と課題」などがあります。

［その他のキーワードの例］
- コマーシャル分析
- 調べ学習・探求学習
- 保護者のメディアに対する態度の分析
- メディアインフォメーションリテラシーの育成

学生：　（2017 年度サバティカル中）

研究室Ｑ＆Ａ　（A.：学生）

Q1. ゼミについて

A. 週に 1 回ほどのペースでゼミがあります。ゼミの雰囲気はなごやかです。

Q2. 研究のスケジュールについて

A. 12 月からしばらくの間は、自分の関心のあるテーマに関連する文献を調べつつ、ゼミ全体で研究の方法について学びます。6 月の着手発表会までに目的と方法をできるだけ考えて、その後、調査や実験を始めます。11 月頃から論文の執筆開始です。

Q3. 研究室について

A. 研究室には各メンバーが使用できる PC があります。インターネットも問題なく使えます。大きな机もあるので、研究の議論もできます。

Q4. 卒業研究について

A. 読書にかかわる地域の取り組みや図書館のサービスについて調べています。ある取り組みの効果を明らかにするにはどのような方法を用いればよいのか、どのような分析をしたら何が分かるのか、授業で学んだことやゼミで読んだ文献を参考に検討しています。

A. 外部の機関と連携して研究を進めています。連携を通して、早く、分かりやすく、正確に必要な情報を伝えることの重要性を実感することが多くあります。研究としての新しい発見だけでなく、このように毎日の生活に活かせる経験もできていると思います。

研究紹介（参考 URL）：
https://www.tsukuba.ac.jp/public/booklets/forum/forum80/04.pdf

MILK

知識情報・図書館学類誌

Extra

October , 2017

研究室紹介号